

飛驒の考古学遺物集成 II

1987

高山市教育委員会

本文目次

例 言

第 6 章 独钻石集成 1

第 7 章 环状石斧·多头石斧集成..... 10

第 8 章 石冠集成 17

挿 図 目 次

挿図 1	飛騨地方の独鈷石分布図	6
2	独鈷石	7
3	独鈷石	8
4	独鈷石	9
5	飛騨地方の環状石斧・多頭石斧分布図	14
6	環状石斧	15
7	多頭石斧	16
8	I型石冠出土分布図	34
9	II型石冠出土分布図	35
10	III型石冠出土分布図	35
11	IV型石冠出土分布図	36
12	V型石冠出土分布図	36
13	石冠 (I型, II-A型)	39
16	石冠 (II-A型)	40
17	石冠 (II-A型, II-B型)	41
18	石冠 (II-B型, II-C型, III-A型)	42
19	石冠 (III-B型, IV型, V型)	43
20	石冠 (V型, VI型, VII型)	44
21	石冠 (IV型, VI型, VII型)	45

表 目 次

表 1	独結石形態分類表	2
2	飛驒地方の独結石集成表	3・4
3	飛驒地方の環状石斧集成表	11
4	飛驒地方の多頭石斧集成表・三頭石斧集成表	11
5	四頭石斧集成表	12
6	六頭石斧集成表	12
7	八頭石斧集成表	12
8	石冠形態分類表	20
9	飛驒地方の石冠集成表	21~30
10	飛驒地方の石冠の底部属性一覧表	33
11	飛驒地方の石冠比率一覧表	33

図 版 目 次

図版 1	独 結 石	46
2	環状石斧	47
3	多頭石斧	48
4	石 冠	49
5	石 冠	50

例 言

1. 本書は、昭和51年3月現在の高山市郷土館収蔵の考古遺物を中心として、飛騨地方出土考古学遺物についての集成を行ったものである。
2. 既に高山市埋蔵文化財調査報告書11号・『飛騨の考古学遺物集成Ⅰ』において、先土器時代遺物（第1章）、有舌尖頭器（第2章）、異形部分磨製石器（第3章）、玦状耳飾（第4章）、硬玉製大珠（第5章）の各集成を発表した。今回はそのⅡとして、独鈷石（第6章）環状石斧・多頭石斧（第7章）、石冠（第8章）を集成するものである。
3. 本書作成にあたって、日本考古学協会会員、高山考古学研究会会員である吉朝則富氏に資料調査を依頼し、全編の執筆と挿図作製を担当していただいた。
4. 写真は、日本考古学協会会員 野村宗作氏及び高山市教育委員会 田中彰の担当によるものである。
5. 一覧表における遺跡名は、岐阜県遺跡地図に記載のある名称を使用し、記載のない遺跡は小字を（ ）付とした。また、不確実なもの或いは特定できないものに関しては空白とした。
6. 挿図は3分の1に統一した。実測図は極力、担当者自身が実測した原図を用いているが、未だ実見の機会のない資料で報告のなされている一部の遺物に関しては、これを使用した。但し、縮尺の都合上、若干の修正を加えたものもある。
7. 集成作業にあたり、高山考古学研究会員諸氏の御協力を得た。また、資料収集にご協力いただいた方々の御芳名は、遺物所有者（保管者）の欄に明記し、感謝の意を捧げるものである。
8. 未発表資料に関しても快く御教示下さった、富山市考古資料館及び飛騨各市町村教育委員会に対し、深く謝意を表したい。
9. 今後、高山市郷土館収蔵の「釣手土器」、「土偶」、「石棒」、「石剣」、「石刀」、「御物石器」及び弥生時代・古墳時代の遺物に関しても、集成が続行されることを期待するものである。

第6章 独鈷石集成

独鈷石（どっこいし）は、縄文時代後・晩期に用いられた一種の両頭石斧であり、その名称は仏具の独鈷に由来する。恐らく中央部に着柄して使用したものであろうが、着柄に適さない形状のもの、また平置された可能性のあるものも存在する。

全国の分布状況は、富山・石川・岐阜・愛知の各県を境にした東日本に限って分布するようであり（能登健1981）、その総数は600点以上あると言われる（渡辺誠1978）。

岐阜県史による昭和47年の時点での飛騨地方の独鈷石出土数は21点であったが、今回の集成により64点の出土が認められ、形態の判明する個体は50点にのぼった。

本集成は、これらの独鈷石について、その内容・所在を明確にし、今後の研究の基礎資料として提示するものである。

独鈷石の形態分類については、基本的に鈴木4分類に従ったが（鈴木道之助1981）その中で、底面を持ち、立てて置けるものについてはそれぞれⅡ-3、Ⅲ-2に細分類した。これは着柄を必要としない場合のある事を意図したものであり、個体数もかなり多い。

I-3タイプに分類されるものの多くは、石錘として扱う研究者もあり、また石材・加工度・着柄方法についても他と異なる要素が強いため、独鈷石の範疇から除外すべく、検討が必要である。

使用の痕跡については、今回の集成分において特に使用によると思われる顕著な痕跡を認める事ができず、従って特に表記は行わなかった。

なお、所有者の欄における（ ）付のものは、文献上にあらわれた所有者（所在地）を意味し現在の所在は確認していない。

独鈷石に関する近年の論考には、山岸良二氏の「千葉県出土の『独鈷石』」（『考古学雑誌』70-4、1985）同じく「千葉県出土の『独鈷石』補遺〈1〉」（『東邦考古』11、1986）、後藤信祐「独鈷状石器小考」（『唐澤考古』5号、1985）などがあり、その形態についての種々の検討がなされている。しかし、独鈷石の用途、性格についてはなお不明な部分が多く、今後多くの課題を残している。

本集成は、飛騨地方出土の独鈷石についての基礎資料提示にとどめるが、尚後の研究として出土の状況、伴出遺物、時期の同定などを調査していく必要がある。

表1 独鈷石形態分類表

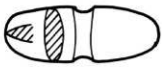
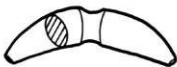

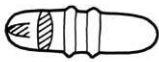

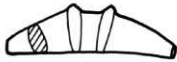
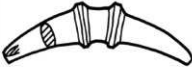


Type	形 状	特 徴	出 土 数
I 型	1		中央部隆起なし、 扁平断面、 石斧状、両刃 2 4%
	2		中央部隆起なし、 断面楕円形、 頭部孤立、先端楕状 1 2%
	3		中央部隆起なし、 両頭部 半球状、 石錘説も 14 28%
II 型	1		中央部隆起はリング状 三角形、 扁平断面、 石斧状頭部、 13 26%
	2		中央部隆起はリング状 三角形、 断面楕円形、 楕状頭部、直線的、 0 0
	3		中央部隆起はリング状 三角形 半リング状、 断面楕円形、孤立、 楕状頭部、平置可能 8 16%
III 型	1		中央部隆起はリング状 台形 半リング状、 孤立に反る、 石斧状頭部 8 16%
	2		中央部隆起はリング状 台形 半リング状、 楕状頭部、平置可能 4 8%
IV 型		有孔、特殊、 多頭石斧の類型か 0 0	

表2 飛騨地方の独結石集成表

番号	遺跡名	所在地	Type	最大長 _{cm}	中央部厚 _{cm}	石質	備考	所有者	文献誌
1	垣内	高山市上野町垣内	-	-	-	-		-	7.9.19.23
2	サゲン洞	塩屋町白元	II-1	(84)	25	砂岩	(左右x門洞)	田中哲郎	7.9.19.23
3		片野町日枝神社境内	II-1	(126)	19	安山岩	大塚行藏 コレクション	高山市郷土館	32
4		江名子町	II-1	154	17	緑色片岩		谷口二一	
5		江名子町	I-3	110	35	安山岩		谷口二一	
6	根方や七畑	滝町根方	II-3	(130)	25	砂岩		洞口和吉	
7		赤保木町	I-3	-	-	安山岩		村坂又平	
8	旗 鐘	大野郡丹生川村旗鐘塚	II-1	125	24	砂岩		神通寺	5.23
9	旗 鐘	丹生川村旗鐘つみだし	III-1	(134)	30	砂岩		大下慶一	
10	六仙寺跡	丹生川村町方	II-1	171	-	-	加藤ノート	-	7.9.19.23
11	下 坪	丹生川村下坪	I-3	130	36	砂岩	加藤輝次 コレクション	高山市郷土館	
12	(滝垣内?)	丹生川村折敷地	III-2	-	-	-		-	7.9
13	板 敷	丹生川村板敷東野	II-3	-	-	-		-	23.31
14	渚	久々野町渚沖垣内	-	-	-	-		-	7.9.19.23
15	大 日 堂	朝日村青屋谷口	-	-	-	-		-	7.9.23
16	石 原	朝日村寺沢石原	II-3	160	-	砂岩		-	7.9.10
17	蓋 野	朝日村見蓋蓋野	III-1	(141)	25	硬砂岩		森本賢三	14
18	山下亀ヶ平	宮村山下	-	-	-	-		-	7.9.19.21. 23
19	間 坂	宮村間坂	-	-	-	-		-	7.9.19.23
20	日 影	宮村日影	I-1	149	30	閃緑岩		神通寺	5.7.9.21. 23
21	間 坂 上	宮村間坂上	-	-	-	-		-	21.23
22	御母衣上洞	白川村御母衣中オイツ	-	-	-	-		-	20.23
23	茨町上町上	白川村茨町上町上	II-1	-	-	砂岩		-	20.23
24	市 通 り	白川村島巾通り	I-3	86	37	ホルン フェルス		白川村教委	28
25		白川村 ヶ	II-3?	-	-	-		-	1
26	上 岩 野	清見村敷ヶ瀬上岩野	I-2	(131)	-	-		-	24
27	上ノ段	吉城郡国府町三川上ノ段	-	-	-	-		-	7.9.11.19. 23
28	大 畑	国府町三川大畑	-	-	-	-		-	7.9.19.23
29	宇 津 江	国府町宇津江市	III-2	159	21	砂岩	12に酷似	村坂又平	25.30
30		国府町(荒城)	II-1	140	27	花崗岩		坂本重次郎	
31	荒城神社	国府町宮地宮垣内	I-3	97	66	安山岩		荒城神社	18
32	荒城神社	国府町宮地宮垣内	I-3	89	51	安山岩		荒城神社	
33	黒 内	吉川町黒内五ヶ	-	-	-	-		-	7.9.19.23
34	(太 江)	吉川町太江	II-3	-	-	-		(鈴木泰庵)	2

番号	遺跡名	所在地	Type	最大長	中央部厚	石質	備考	所有者	文献
35	(高野)	吉城郡古川町高野	I-3	-	-	-		(塚腰遺蔵)	2
36	(高野)	古川町高野佐宮堂	II-1	184	36	安山岩		村坂又平	30
37	谷	古川町谷	I-?	-	-	-			22
38	竈柱上野	上宝村竈柱上野	II-1	(112)	28	-		上野一郎	15.19.23
39	竈柱下垣内	上宝村竈柱下垣内	-	-	-	-			7.9.12.13. 19.23
40	(宮原)	上宝村宮原	I-3	110	46	-		-	15
41	(本郷)	上宝村本郷	II-1	(95)	20	砂岩	加藤輝次 コレクション	高山市郷土館	
42	(在家)	上宝村在家	III-1	-	-	砂岩		坂本重次郎	
43	(在家)	上宝村在家柱本神社	II-1	(133)	29	砂岩		坂本重次郎	
44		上宝村	II-1	182	30	砂岩		神通寺	2.5
45	塙 穂	宮川村杉原塙穂	III-1	214	29	砂岩		二木酒造	2.7.8.9.19 23
46	中 沢 上	宮川村中沢上上平	III-1	(160)	-	-		水畑重平	26
47	(打保)	宮川村打保	III-2	(120)	27	砂岩	加藤輝次 コレクション	高山市郷土館	7.9
48	(塩屋)	宮川村塩屋向島	I-3	-	-	-		金橋社	2.7.9
49	跡 津	神岡町跡津	I-1	173	23	砂岩		神通寺	5
50	(数河)	神岡町数河	III-2	185	29	砂岩		片桐美良	5
51		神岡町	II-1	-	-	-		(佐藤泰郷)	2.8
52	(角川)	河合村角川入角	II-3	(111)	26	-		(柏木氏)	3.7.9
53	(角川)	河合村角川	II-3	170	22	閃緑岩		瀬ノ上尹男	2
54	桜洞神田	益田郡萩原町桜洞神田	I-3	-	-	-		縣神社	6.7.9.19. 23
55	の ち ゃ ら	萩原町山之口上之田	-	-	-	-			7.9.23
56		萩原町尾崎	III-1	(177)	24	砂岩	津野倉洲 コレクション	小森元三郎	
57	三 つ 石	下呂町乗政三つ石	I-3	120	52	凝灰岩		神通寺	5.7.9
58	小 つ ば 坂	馬瀬村黒石牧戸	I-3	(133)	-	砂岩		牧戸富喜雄	29
59	無 蓋	馬瀬村黒石無蓋	II-3	160	-	安山岩		中切学校	
60		吉城郡宮川村	III-1	(182)	28	凝灰質 安山岩		坂下小学校	
61	(塩屋)	宮川村塩屋	I-3	120	-	凝灰岩	栗山 コレクション	富山市 考古資料館	
62		大野郡莊川村	I-3	-	-	-		瀬ノ上尹男	
63		高山市石浦町	-	-	-	-			
64		上野町	III-1	205	-	-	江馬写真	(平田平右門)	

独鈷石文献目録(飛驒関係分)

1	木内石亭	『雲根志』三編卷五	1773~
2	佐藤泰郷	『日本古物小集会図録 千代の鏡』	1886
3	田中正太郎	『飛驒ノ石器ノ一二』東京人類学会雑誌8-79	1892
4	大野雲外	『独鈷石の形式について』人類学雑誌24-276	1908
5	朝戸高山	『鶯夢軒所藏石器図 石のまきもの』	1919
6	犬塚行藏	『益田郡萩原町縣神社石器時代遺物觀覽記』飛驒史壇8-12	1929
7	多賀秋五郎	『飛驒史の研究』	1931
8	加藤輝次	『朝戸高山師遺稿抄』飛驒考古学会会報2	1933
9	飛驒考古土俗学会	『飛驒石器時代遺跡地名表』	1935
10	林 魁一	『飛驒益田郡朝日村の石器時代遺跡及遺物』人類学雑誌51-4	1936
11	林 魁一	『吉城郡国府村三川の遺跡』ひだびと5-2	1937
12	林 魁一	『飛驒国吉城郡藏柱の遺物』ひだびと5-11	1937
13	林 魁一	『飛驒国吉城郡上宝村石器時代遺跡遺物に就いて』史前学雑誌9-6	1937
14	朝日村	『朝日村誌』	1956
15	大江命・下形武	『上宝村の先史時代』	1958
16	国府村	『国府村史』全	1959
17	小林行雄	『独鈷石』『図解考古学辞典』東京創元社	1959
18	澄田正一	『荒城神社縄文式時代遺跡』岐阜県指定文化財調査報告書4	1960
19	岐阜県教育委員会	『岐阜県遺跡目録』	1962
20	白川村	『白川村史』	1968
21	宮村	『宮村誌』	1968
22	土田吉左衛門	『信包出土の一頭石斧について』飛驒春秋15-6	1970
23	岐阜県	『岐阜県史』通史編原始	1972
24	清見村	『清見村誌』	1976
25	岐阜県立博物館	『濃飛の先史時代』	1979
26	宮川村	『宮川村誌』通史編上	1981
27	鈴木道之助	『石器の基礎知識』Ⅲ 柏書房	1981
28	白川村	『巾通り遺跡発掘調査報告書』	1983
29	馬瀬村	『馬瀬村の埋藏文化財』	1985
30	岐阜県立博物館	『濃飛の縄文時代』	1985
31	林 魁一	『飛驒高山附近の石器時代遺物及び遺跡』史前学雑誌5-2	1933
32	犬塚みつ	『犬塚行藏飛驒考古学遺稿』	1939

挿図1 飛騨地方の独結石分布図

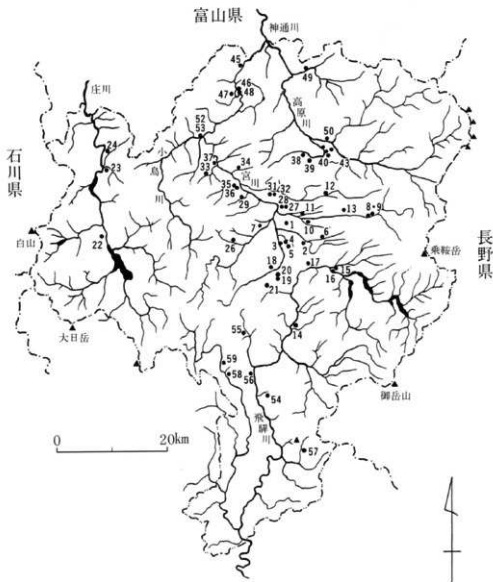


插图2 独 钻 石

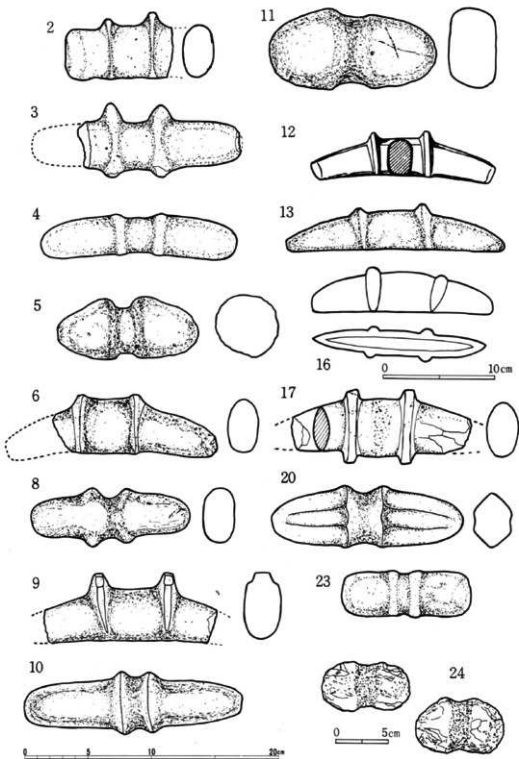
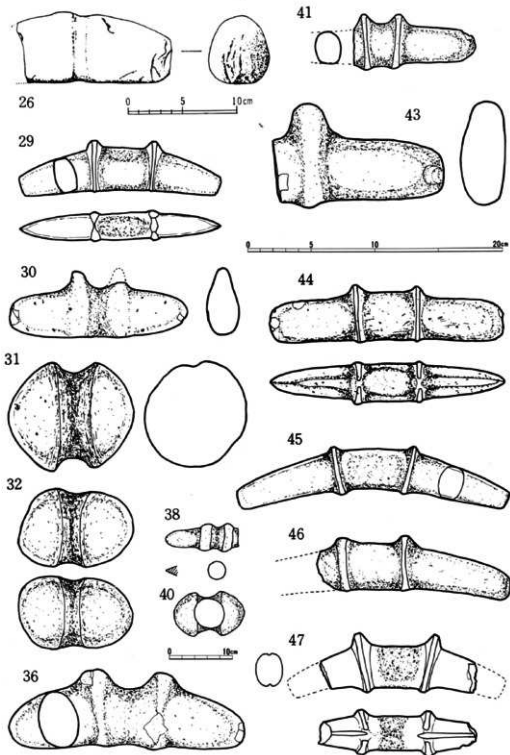
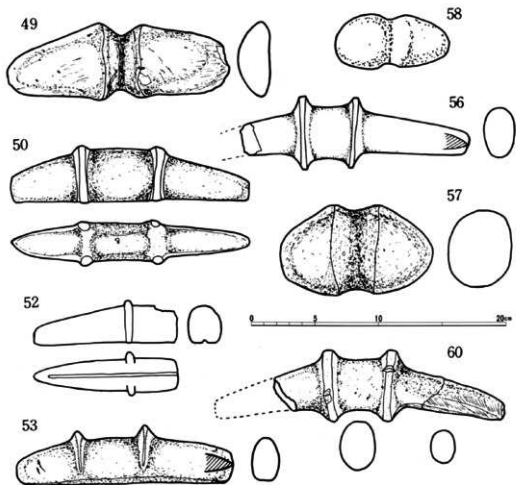


插图3 独 钻 石





第7章 環状石斧・多頭石斧集成

厚みのある円盤形の周縁に刃をつけ、中心に貫通孔をもつ環状の磨製石器を、環状石斧と呼び、この刃部が3個～8個の刃部に分かれているものを、多頭石斧と呼ぶ。

環状石斧は、縄文早期から弥生時代まで存在するが、多頭石斧はほぼ縄文晩期に限られるようである。分布はいずれも、東北地方から中部地方にかけて多くみられるが、発掘例は稀であり、その実態は明らかではない。ポリネシアやメラネシアの土俗例から、棍棒頭石器群としてとらえる見解が有力である。

飛騨地方における環状石斧の出土は、岐阜県史(1972)によると10例であったが、刃部をもたない「環石」との混同もあり、今回の集成で確実なものは10例、未確認6例となった。

多頭石斧は、三頭12例、四頭2例、六頭3例、八頭1例の計19例が集成された。このうち、四頭石斧の1例は、独鈷石Ⅳ類(第6章参照)と共通の形状をなしており、むしろ独鈷石Ⅳ類は多頭石斧の範疇に含めた方がより妥当と思われる。

環状石斧・多頭石斧に共通する中央の円孔を、着柄孔と考えるならば、日本の石斧類とは際立って異系統の発展を示しているとの見解がある(八幡一郎『考古学』1-2昭5)。従って中国・朝鮮出土の石斧類との関係が強調されるわけであるが、武器として用いられたそれらものに比べ、日本の環状石斧は多分に儀器的な要素を持っていると思われる。

飛騨地方の三頭石斧には、無孔のものがいくつかみられるが、穿孔の意図を示す凹みのある個体もあり、穿孔が省略されたものと考えられる。この三頭石斧の分布が、宮川・高原川流域のみに限られ、特に古川、国府盆地に集中する傾向は、当地が沖積平野として飛騨で最も早く稲作を開始した地域であることと無関係ではないように思われる。

四頭石斧は、環状石斧に切目を加えた形状のものと、十字形石斧に孔を備える形状の2種類が各1点ある。後者はもう1点、出土例の増える可能性があるが、今回は確認しなかった。

六頭石斧の2点は、いずれも表裏の製作度に違いがあり、正面を意識したものと思われる。六-1の個体には、黒い皮膜(ウルシか)とその上に赤色塗料が残存し、儀器的なものであった事をよく示している。

第6章の独鈷石と同様に、今後はその出土状況や伴出遺物の特定を推進させる必要がある。

表3 飛騨地方の環状石斧集成表

番号	遺跡名	所在地	石質	外径cm	孔径cm	所有者 (保管場所)	備考	文献
1	泉水	高山市江名子町泉水						4.6.10.18
2	糠塚	高山市江名子町糠塚	砂岩	12.8	2.4	高山市郷土館	加藤コレ クション	4.5.6.10. 15.18
3	(滝)	高山市滝町						4
4	(上野)	高山市上野町	砂岩	9.0	2.4	神通寺		3
5	(町方小学校)	大野郡丹生川村町方	閃緑岩?	17.3	2.4	高山市郷土館	大塚コレ クション	4.8.18
6	法力	大野郡丹生川村法力	粘板岩	10.0	2.8	高山市郷土館	倉コレ クション	
7	下保	大野郡丹生川村下保		7.0		村坂又平		20
8	(笹野)	吉城郡古川町笹ヶ洞笹野	砂岩	11.5	1.7	土田吉左衛門		17.18
9	塩屋	吉城郡古川町信包塩屋	砂岩	9.6	2.5	土田吉左衛門		17
10	吉田なかと洞	吉城郡神岡町吉田なかと洞		14.0				18
11	(西高)	益田郡萩原町四美西高						4.18
12	(用曾田)	益田郡萩原町中呂用曾田						4
13	(大淵)	益田郡下呂町小川大淵						4
14	橋場	益田郡小取町大島橋場		11.7		大江 命		16.18
15	無笹	益田郡馬瀬村無笹	安山岩	20.0		高瀬兼吉		21

表4 飛騨地方の多頭石斧集成表・三頭石斧集成表

番号	遺跡名	所在地	石質	外径cm	有孔品の 孔径cm	所有者 (保管場所)	備考	文献
1	垣内	高山市上野町垣内						4.6.18
2	上切	高山市上切町与島						6.10.15.18
3	柏原	大野郡丹生川村柏原向山						4.18
4	(瓜田)	大野郡丹生川村瓜田				(都築霊源)		1
5	高野	吉城郡古川町高野市ノ上				五社神社	有孔	1.4.6.18
6	(上気多)	吉城郡古川町上気多平塚	、	13.2		村坂又平	凹み	
7	荒城神社	吉城郡国府町宮地宮垣内		17.0		荒城神社		6.14.15.18
8	(上広瀬)	吉城郡国府町上広瀬	緑色片岩	10.6			打製	
9		吉城郡国府町	砂岩	18.1	2.9	国府町資料館	岡村コレ クション	
10	荒原	吉城郡上宝村荒原牧野	砂岩			平湯民俗館		12.18
11	飛驒			13.1		二木酒造		1.22
12	飛驒			14.0		二木酒造	打製	1.22

表5 四頭石斧集成表

番号	遺跡名	所在地	石質	外径cm	孔径cm	所有者 (保管場所)	備考	文献
1	蔵柱下屋内	吉城郡上宝村蔵柱下屋内	凝灰質 流紋岩	12.1	2.2	神通寺	有孔	3.4.6.15. 18
2		飛驒		14.0		(永田吉右門)	有孔	1

表6 六頭石斧集成表

番号	遺跡名	所在地	石質	外径cm	孔径cm	所有者 (保管場所)	備考	文献
1	大日堂	大野郡朝日村青屋谷口	砂岩	13.0	2.4	神通寺		2.3.4.6.7.8 11.15.18.20
2	三日町	大野郡清見村三日町大岩堂						6.15.18.19
3	三日町	吉城郡国府町三日町大坪	砂岩	11.0	2.7	二本酒造		6.9.13.18

表7 八頭石斧集成表

番号	遺跡名	所在地	石質	外径cm	孔径cm	所有者 (保管場所)	備考	文献
1	灰土	大野郡朝日村大広灰土						6.7.11.15. 18

環状石斧・多頭石斧文献目録(飛驒関係分)

1	佐藤泰郷	『日本古物小集会図録 千代の鏡』	1886
2	淡 屋	「飛驒ノ石器」東京人類学会雑誌4-33	1888
3	朝戸高山	『鶯夢軒所藏石器図、石のまきもの』	1919
4	多賀秋五郎	『飛驒史の研究』	1931
5	笠原鳥丸	「飛驒発見の環状石斧に就いて」考古学3-4	1932
6	飛驒考古土俗学会	『飛驒石器時代遺跡地名表』	1935
7	林 魁一	「飛驒益田郡朝日村の石器時代遺跡及び遺物」人類学雑誌51-4	1936
8	大塚みつ	『大塚行蔵飛驒考古学遺稿』	1939
9	多志弥一	「六頭石斧の新資料」ひだびと10-9	1941
10	高山市	『高山市史』上	1952

11	朝 日 村	『朝日村誌』	1956
12	大江 命・下形武	『上宝村の先史時代』	1958
13	国 府 村	『国府村史』全	1959
14	澄 田 正 一	「荒城神社縄文式時代遺跡」岐阜県指定文化財調査報告書	1960
15	岐阜県教育委員会	『岐阜県遺跡目録』	1962
16	大 江 命	『飛騨の考古学Ⅰ』	1965
17	土田吉左衛門	「信包出土の一頭石斧について」飛騨春秋15-6	1970
18	岐 阜 県	『岐阜県史』通史編原始	1972
19	清 見 村	『清見村誌』	1976
20	岐阜県立博物館	『濃飛の先史時代』	1979
21	馬 瀬 村	『馬瀬村の埋蔵文化財』	1985
22	岐阜県立博物館	『濃飛の縄文時代』	1985

挿図5 飛騨地方の環状石斧・多頭石斧出土分布図

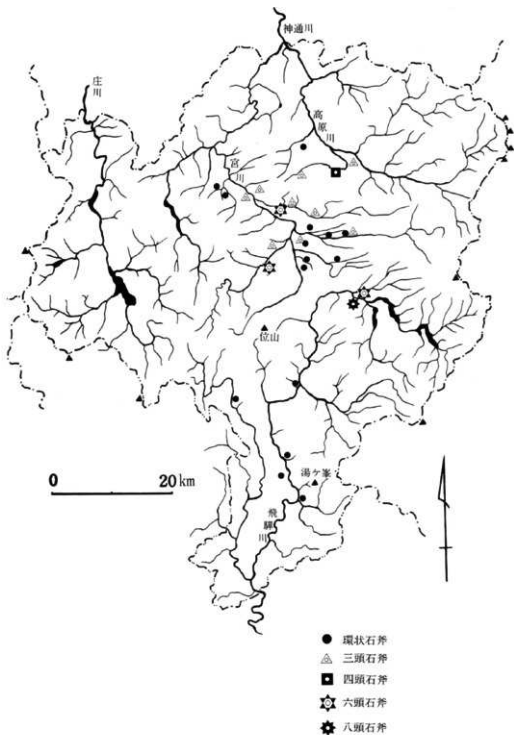


插图6 环状石斧

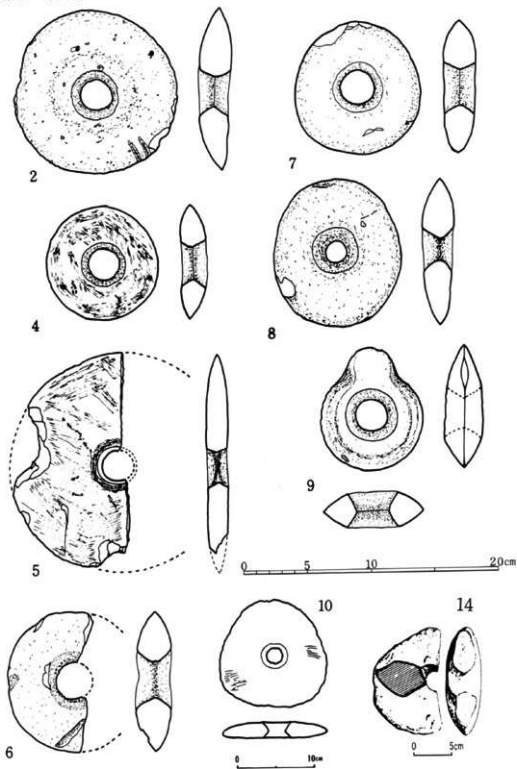
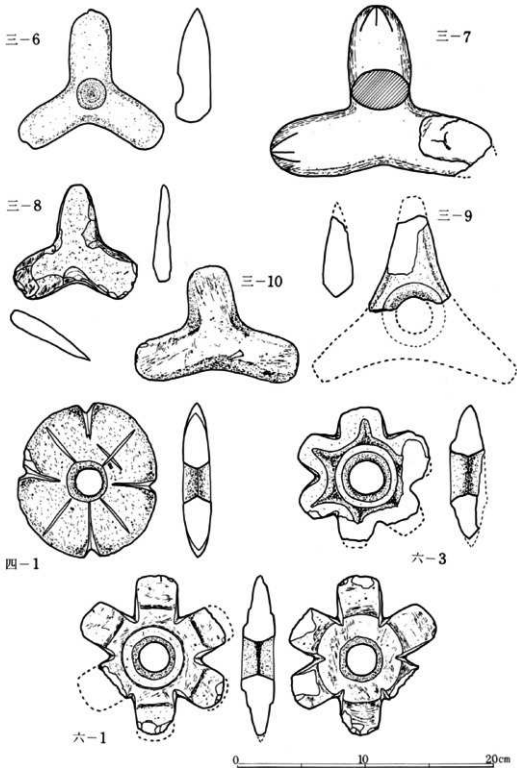


插图7 多眼石斧



第8章 石冠集成

1 飛驒の考古学遺物集成の第8として、石冠集成を行った。

石冠は、既に明治23年、神田淡匡によって「飛驒国各種石冠略図説明」(文献5)が報告されているように研究史も古く、また命名のルーツも飛驒にあるようである。

大正末期から昭和初期にかけて石冠研究の全盛時代があり、百家争鳴の感があったが一応、吉田富夫の説の定着をみた(文献33)。その後近年になって、橋本正、中島栄一らの研究を通して石冠研究に新しい見解が導入され、再び気運の高揚をみている。

石冠の形式分類、分布、機能についての論考はかなり進展してきているが、未解決の問題もまた山積している。石冠の濃密分布地域である飛驒における研究の成否が、その鍵を握っていることは確かであろう。

本稿では、従来の集成の3倍に及ぶ石冠を集成し、資料提供を行った。その後も資料は着実に増加しており、最終的には、飛驒地方だけで日本全国出土総数の50%を占める事はほぼ確実である。ただ、最近の新潟県龍峰遺跡概報(文献89)の様に、1遺跡に68点もの石冠の出土をみるような例が増えるならば、情勢の変化する可能性はある。

昭和61年10月、飛驒史学会第8回大会において筆者は「飛驒地方における石冠の分布とその機能について」の研究発表を行った。その内容については62年10月『飛驒史学』第8巻に掲載の子定であるが、その基礎資料としての本集成をここに発表するものである。従って本文の著述は、形態分類の解説及び分布の概略にとどめ、機能についての論考は省略したい。

2.

本稿の石冠分類は、基本的には中島栄一「石冠・土冠」(文献81)の4タイプ分類にのっとった。即ち正面観と側面観を考慮に入れた分類であるが、一部変更がある。

I型は、基底部の形状でA、Bに分けられるが、飛驒地方においてはBは極めて少なく、考慮の必要はないかも知れない。ちなみにI型石冠は全国出土総数の50%を飛驒が占めている。

II型は、斧状頭部を持つものであり、頭部が刃状になっている点に基準を置いている。従ってII-B型は中島分類によれば山形石冠(III型)の分類に入っているものであるが、あくまで刃部を備えるという意味においてここに編入した。刃としての認定には困難を伴う固体も多いのであるが、一応稜をなす程度以上のものをそれとした。II-A型は飛驒でも最も多くを占め石冠の基本的な要素を、①安定性、②頭部と基底部の明確な区分、③底面の抉り、に見るなら

ばその全てを完備している点において、石冠の代表形式とすべきものである。II-C型はII-A型とIV型石鋸（形石冠）との中間形態を示すもので、弧状に長い刃部と、抉りの入る底面を持つ。石鋸を石冠の類型に入れるべき論拠の一つとしてこのタイプは注目されよう。

III型は、正面観も側面観も山形を呈するもので、頭部・基底部の区別の有無はA・Bの形で付けている。頭部を刃状にする製作上の意図はなく、また使用の結果でもない。橋本正・中島栄一氏はこれらに擦り石的機能を認めておられるが（文献72, 81）実際に底面の磨滅している個体は1割程度にすぎず、断定は困難である。特に筆者がII-B型に編入したタイプは、刃部の存在に決定的な擦り石との差異を認めることができよう。

IV型は、石鋸とも呼ばれる特殊な石冠で、安定性のない点が特徴である。小島俊彰氏は「平村の縄文時代」（文献86）において石鋸を一つの独立した石器とみなし、石冠とは区別する見解を述べておられるが、少なくともII-AやII-C型石冠がその成立に関与していると思えてならない。麻柄一志氏（文献87）も、石冠との関連を注目しておられるようである。なお、IV型にみられる小孔の意図は皆目見当がつかないでいる。

V型は、中島分類に欠落する形態であり、資料の少ないことがその原因と思われる。しかし飛騨で11例、北陸地方に7例が認められ、またすでに文政時代において、国学者田中大秀の命名による老鼠（おいねずみ）という名を有している石器である（文献57, 86）。橋本氏はこれを異形石棒として分類している。動物、ことに魚に原形が求められるとされ、御物石器の成立に関与した石器と位置付けされている（文献72）。小島氏は石冠の一類型とみなし、石冠の密集地帯の中のさらに限られた地域（飛騨）で作られている点と、後期後葉という時期を強調しておられる。いずれも重要な指摘であり、石冠・御物石器研究の鍵となる型式であると筆者も考えている。

VI型は、魚形石製品、あるいは鏝形石製品の名を有しているもので、III-B形石冠の長大化した形態をなすものとして、一応石冠の類型に入れてみたが数は少ない。底面の抉りは持たないが使用痕は皆無で、両端に線刻の加えられているものがある。魚をモチーフとして生まれたものであろうことは想像に難くないが、時期の限定がポイントとなるだろう。

その他、石冠の類型に含まれる可能性のあるものとして、VII型にプリズム形石器と、超大型山形石冠、異形石器、バナナ形石器をまとめておいた。量的にも微々たるものであるが、石冠の要素に共通するものを持っている点において看過できないものがある。バナナ形石器はIV型石鋸形石冠の類型に近く、また異形石器のあるものは、その造形や底面の抉りにV型石冠との共通性をもつ。

以上述べてきたが、石冠の分類は、基本的なI・II・IIIの3型態に、少なくともIV・Vの2型態を含めた5分類が必要でないかと思われる。石冠の類型にVI・VII型を含めることは、石冠研

究に混乱を引きおこす恐れもないではないが、石冠に密接な関連をもった石器群としてとらえる必要はあり、その取捨は、今後の研究の進展に依存するものである。

3.

中島栄一氏「石冠・土冠」(1983 雄山閣)を参考に、石冠の全国分布図を作成した。ただし飛騨地方分については、当方の資料を用いている。

I型石冠は、日本海側沿いに青森県まで分布し、比較的富山・新潟に多いが、飛騨地方に際立って集中分布する。全国出土数 134点中、実に 67点(50%)を占めている事は注目に値しよう。

II・III型石冠については、中島氏と分類方法が異なるため、飛騨地方のみの分布図を示したが、全国的にはI型と比較して分布が太平洋側にも拡大し、特に愛知県の海岸沿いの大貝塚遺跡や、石川県の大遺跡に集中出土する傾向がある。飛騨に分布の中心がある点は、II型もI型と同様に認められるが、III型ははっきりと減少し、逆に海岸部の大遺跡に集中出土をみるようである。

IV型は、富山・石川・新潟の3県に濃密に分布し、飛騨へは神通川を遡って入ってきている様子がよくわかる。ただ飛騨川の資料は、北陸に比較して製作が丁寧であり、石材も軟質で実用品とは全く考えられない点が重要である。

V型おいねずみ型石冠は、数少ないながらも飛騨を中心として、北陸地方に分布の範囲をもつ。分布が局地的である事と、時期が後期に遡る点において注目すべきタイプであることは、小島氏、橋本氏も同様の見解である。

VI・VII型については、他地域の詳細がよくわからないため、分布図は作成できなかった。ただ、VI型魚形石製品型石冠は、神通川上流域に多く分布し、恐らくIV型石鋸形石冠と同様の分布状態を示すと思われる。プリズム形石冠をふくめて、底面の凹みをもたない(あるいは省略された)大形タイプの石冠群としてまとめられる要素をもっている。

以上、分布についての概説を行ったが、より詳しい内容そして底面の凹み、底面の磨減痕、刻文等についての考察は、別紙に譲りたいと考える。

表8 石冠形態分類表


































		正面	側面	底面	特徴	
I	球頭状石冠型	A				頭部：球頭状 底部：長方形・楕円形 頭部と基底部の区別が明瞭
		B				頭部：球頭状 底部：円形・隅丸方形 頭部と基底部の区別が明瞭
II	斧状石冠型	A				頭部：石斧状 底部：隅丸方形・楕円形 頭部と基底部の区別が明瞭
		B				頭部：石斧状 底部：方形・楕円形 頭部～基底部が一体化
		C				頭部：石斧状 大形 底部：楕円形 頭部と基底部の区別が明瞭
III	山形石冠型	A				頭部：丸みを帯びる 底部：楕円形・隅丸方形 頭部と基底部の区別が明瞭
		B				頭部：丸みを帯びる 底部：円形・楕円形 頭部～基底部が一体化
IV	石鋸型				頭部：突出 刃状 底部：丸みを帯びて正置不可が多い 頭部と基底部の区別が明瞭	
V	おいねずみ型				頭部：丸みを帯びる 底部：長楕円形 基底部の一方に突出部がある。	
VI	魚形石製品型				頭部：丸みを帯びるが僅かに刃のつく場合もある。 底部：長楕円形で平坦	
VII	特殊の他型					

表9 飛騨地方の石冠集成表

番号	遺跡名	所在地	I型			II型			III型		IV型	V型	VI型	VII型	石質	凹み	所有者 (保管場所)	備考	文献
			A	B	A	B	C	A	B										
1	(小谷)	吉城郡宮川村小谷字牛首														平瀬 徳	折 損	78	
2	岩野	宮川村大無羅字岩野			○													78.81	
3	宮ノ尾	宮川村野首字宮ノ尾																18.78	
4	家の下	宮川村林字家の下	○											流紋岩	○	瀧 吾一郎	割 文 入	73.78	
5	家の下	宮川村林字家の下						○							×	瀧 吾一郎		73.78	
6	家の下	宮川村林字家の下						○							○	宮川村役場		73.78	
7	(林)	宮川村林			○										○	野村統寛		1.78	
8	(林)	宮川村林														野村統寛		78	
9	(林)	宮川村林														野村統寛		78	
10	(林)	宮川村林														野村統寛	粗製半壊	78	
11	(中嶋)	宮川村牧戸字中嶋																78	
12	エノ口	宮川村牧戸エノ口																78	
13	家の空	宮川村牧戸字家の空																78	
14	(赤田)	宮川村菅沼字赤田			○													78	
15	家廻り	宮川村菅沼字家廻り														東 久雄		78	
16	上野	宮川村三川原字上野															石罫型か	78	
17	宮ノ上	宮川村三川原字宮ノ上			○										×	土田吉左衛門		70.78	
18	まつば	宮川村三川原字まつば															石罫型か	78	
19	嶋	宮川村高牧字嶋																78	
20	(上高牧)	宮川村高牧字上高牧																78	
21	宮ノ前	宮川村西忍字宮ノ前	○															26.65.78 81	
22	(上ノ山)	宮川村西忍字上ノ山																78	
23	(うづか)	宮川村西忍字うづか														邑上 章		78	
24	橋本	宮川村打保字橋本																78	
25	入与	宮川村打保字入与	○											砂 岩	○	神通寺	修理前	29.78.81	
25	(巾ノ上)	宮川村打保字巾ノ上	○											凝灰岩	×	高山市郷土館			
27	(打保)	宮川村打保			○									凝灰岩	○	神通寺	修理前		
28	(家の廻り)	宮川村杉原字家の廻り																78	
29	瑞 穂	宮川村杉原字瑞穂	○															70.78	
30	(井ノ上)	宮川村中沢上字井ノ上						○								○	日枝神社	78	
31	(はそおき)	宮川村塩屋字はそおき																78	
32	宮ノ上	宮川村塩屋字宮ノ上																78	
33	島	宮川村塩屋字島																78	

番号	遺跡名	所在地	I型			II型			III型		IV型	V型	VI型	VII型	石質	凹み	所有者 (保管場所)	備考	文献
			A	B	A	B	C	A	B	A									
34	(塩屋)	吉城郡宮川村塩屋				○										金神社		I	
35	(塩屋)	宮川村塩屋				○										金神社		I	
36	(塩屋)	宮川村塩屋	○													金神社		I	
37	西沼	河合村羽根寛町ノ下	○													壇土神社	刻文入	6.18.23. 65.81	
38	西沼	河合村羽根寛町ノ下				○												6.18	
39	西沼	河合村羽根寛町ノ下				○												6.18	
40	室屋	河合村保々室屋										○		流紋岩		小森茂夫	御物石器に近い	61.65	
41	室屋	河合村保々室屋									○		安山岩	×	土田吉左衛門	刻文入	61		
42	内方	河合村保々内方							○						○	河合村教委	免帳調査	64	
43	(中之洞)	河合村有家中之洞										○		流紋岩	×	上野益藏	刻文入	54.65	
44	大門寺	河合村角川寺大門寺				○												33.81	
45	(角川)	河合村角川				○								砂岩	○	瀬ノ上伊男		I	
46	(角川)	河合村角川	○											凝灰岩	○	瀬ノ上伊男			
47	(卜ヶ)	河合村角川字卜ヶ	○											砂岩	×	村坂又平			
48	福藏	吉川町太江寺福藏						○						砂岩	×	北村喜千郎	大形	75.81	
49	福藏	吉川町太江寺福藏	○													(佐藤彦太郎)		1.9.24. 49.65	
50	福藏	吉川町太江寺福藏				○								凝灰岩	○	二木酒造	刻文入	5.9.10	
51	福藏	吉川町太江寺福藏				○								粘板岩	○	二木酒造	刻文入	9.10	
52	館	古川町杉崎館	○											安山岩	○	神通寺		24.49.65	
53	(杉崎)	古川町杉崎	○											凝灰岩					
54	装束丸	古川町装束丸																24.49.65	
55	岡前	古川町岡前	○											砂岩	○	二木酒造		21.24.49 65	
56	(中野)	古川町中野				○								砂岩	○	片桐美良		24.65	
57	中野山越	古川町中野山越	○											凝灰岩	×	古川町教委			
58	中野山越	古川町中野山越				○								凝灰岩	○	古川町教委	刻文入		
59	中野山越	古川町中野山越				○								砂岩	×	古川町教委			
60	中野山越	古川町中野山越									○			凝灰岩	×	古川町教委			
61	黒内	古川町黒内字五ヶ	○												○	(天木)	浮文	5.24.49. 65	
62	谷	古川町谷																24.49.65	
63	下野	古川町下野				○									○	(佐藤彦太郎)	刻文入	9.24.49. 65	
64	(高野五社)	古川町高野						○						凝灰岩	○	村坂又平	刻文入	75	
65	(高野五社)	古川町高野						○						砂岩	×	村坂又平			
66	上気多	古川町上気多	○															24.49.65 81	

番号	遺跡名	所在地	I型			II型			III型		IV型	V型	VI型	VII型	石質	凹み	所有者 (保管場所)	備考	文献
			A	B	A	B	C	A	B	A									
67	(中気多)	吉城郡古川町中気多取			○									凝灰岩	○	村坂又平	有 孔		
68	(中気多)	古川町中気多立石	○											砂岩	×	村坂又平			
69	戸 市	古川町戸市				○												81	
70	(宮 洞)	古川町敷河字宮洞				○												81	
71	(宮 洞)	古川町敷河字宮洞				○												81	
72		(古川町)							○						○	(佐藤孝太郎)		9	
73		(古川町)	○													(都築霊源)		1	
74	日 焼	国府町上広瀬字日焼							○						×			24.25.65	
75	矢 洞	国府町上広瀬字矢洞																24.49.65	
76	石 原	国府町上広瀬字石原										○		砂岩	×	田川源右衛門	+	分+彫器	
77	(桜 野)	国府町上広瀬										○		砂岩	×	坂本重次郎		刻文入	
78	(上広瀬)	国府町上広瀬			○											(小田治助)		刻文入	
79	広 瀬 町	国府町広瀬町																24.49.65	
80	(渡 瀬)	国府町広瀬町渡瀬										○			○	村坂又平		18	
81	名 張	国府町名張																24.49.65	
82	三 日 町	国府町三日町三ノ坂							○						×	村坂又平	有 孔	6.24.45. 65	
83	(細 洞)	国府町三日町細洞	○												○	(岡村利平)		飛騨史料1 24.47.49	
84	荒城神社	国府町宮地字宮垣内						○						凝灰岩	×	荒城神社		62.65.77 81	
85	寺ノ下	国府町東門前字寺ノ下			○									流紋岩	○	荒城神社		刻文入	
86	荒城神社	国府町宮地字宮垣内						○						流紋岩	×	荒城神社			
87	荒城神社	国府町宮地字宮垣内						○						安山岩	×	荒城神社			
88	荒城神社	国府町宮地字宮垣内			○									凝灰岩	○	神通寺		11	
89	荒城神社	国府町宮地字宮垣内							○					凝灰岩	×	谷口嘉樹		刻文入	
90	(宮 地)	国府町宮地							○						×	(牛丸助藏)	有 孔	1	
91	(宮 地)	国府町宮地				○										(室 徳三)		1	
92	(垣 内)	国府町三川字垣内			○													81	
93	(垣 内)	国府町三川字垣内			○													81	
94	金 桶	国府町金桶	○											砂岩	○	田中義雄			
95	八 日 町	国府町八日町																24.45.49 65	
96	黄 輪	国府町黄輪						○						安山岩	×	村坂又平		刻文入	
97	漆 垣 内	国府町漆垣内																24.45.49 65	
98		(国府町)	○											凝灰岩	×	二本酒造			
99	麻 生 野	神岡町麻生野石神	○													石田安太郎		刻文入	

番号	遺跡名	所在地	I型		II型			III型		IV型	V型	VI型	VII型	石質	凹み	所有者 (保管場所)	備考	文献
			A	B	A	B	C	A	B									
100	麻生野	吉城郡神岡町麻生野石神												凝灰質 流紋岩	×	尾崎菊造		36
101	麻生野	神岡町麻生野石神												砂岩	○	尾崎菊造		36
102	麻生野	神岡町麻生野石神														尾崎菊造		36
103	石神	神岡町石神字下野														石神社		19.32.49 65
104	石神	神岡町石神			○										×	昭進寺		
105	石神	神岡町石神						○							○	坂本重次郎		
106	西	神岡町西字上ノ段																24.65
107	西	神岡町西			○											(神通寺)	別文入	11
108	西湊山	神岡町西湊山							○						×	(杉取証道)		1.9
109	殿	神岡町殿						○								(結城村)		1
110	やなぎさこ	神岡町船津字うづは谷			○													81
111	(和佐保)	神岡町船津字和佐保			○									砂岩	○	神通寺		
112	(船津)	神岡町船津	○													(川上伊三門)		1
113	(船津)	神岡町船津							○					泥岩	×	国府町教委		
114	東雲下野	神岡町東雲字下野																49
115	山田	神岡町山田字上山田							○						×	(藤井)		5.24.65
116	伏方	神岡町伏方			○									流紋岩	×	中林繁和		
117	蔵柱下垣内	上宝村蔵柱字下垣内																30.31.43 49
118	(本郷)	上宝村本郷				○								砂岩	○	高山市郷土館		17
119	(本郷)	上宝村本郷				○								砂岩	○	田近豊丸		1
120	(長倉)	上宝村長倉	○											砂岩?	○	二本酒造	うるし?	1
121	(見座)	上宝村見座			○									凝灰岩	○	二本酒造	別文入	1.9
122	(見座)	上宝村見座	○											凝灰岩	○	村坂又平		75
123	(在家)	上宝村在家			○									砂岩	○	坂本重次郎		
124	(今見)	上宝村今見				○								安山岩	○	村坂又平		
125	(上野町)	高山市上野町				○								凝灰岩	×	高山市郷土館		
126	垣内	上野町垣内								○				安山岩	×	村坂又平	別文入	
127	(三福寺)	三福寺町	○											砂岩	×	谷口二一		
128	尾崎	松本町上野				○										橋本健二		49
129	寺東	岩井町寺東					○							砂岩	×	洞口和吉		
130	寺東	岩井町寺東	○											砂岩	×	中村繁雄		
131	(後山)	岩井町後山								○				凝灰岩	○	洞口和吉		63
132	(滝)	滝町				○								流紋岩	×	高山市郷土館		

番号	遺跡名	所在地	I型		II型			III型		IV型	V型	VI型	VII型	石質	凹み	所有者 (保管場所)	備考	文献
			A	B	A	B	C	A	B									
133	(赤保木)	高山市赤保木町宮ヶ洞			○								砂岩	○	高山市郷土館	新孔, 新文入	1.5.9.17 24.49.81	
134	(赤保木)	赤保木町宮ヶ洞	○											○	郷 浩	新文入	1.75.81. 67	
135	赤保木ウエノ野	赤保木町													熊野神社		37	
136	狐 洞	新宮町上狐洞															49.65	
137	鷹ノ巣	下江名子町鷹ノ巣															24.65	
138	町上野	山口町町上野															49.65	
139	上上野	山口町上上野															49.65	
140	(坂本)	山口町坂本	○										砂岩	○	坂本重次郎			
141	森下	山口町森下			○								凝灰岩	○	垣水富郎			
142	白元	濃垣内町山腰					○						砂岩	○	田中哲郎	新文入	24.49.63 65	
143	サゲン洞	濃垣内町白元											凝灰岩	×	田中哲郎			
144		(高山市)	○										砂岩	×	小森丈一			
145	徳野	大野郡清見村牧ヶ洞徳野			○									○	中田吉右エ門		24.49.65 74.81	
146	徳野	清見村牧ヶ洞徳野												○	中田吉右エ門		22.24.65 74	
147	徳野	清見村牧ヶ洞徳野												○	中田吉右エ門		22.24.65 74	
148	寺洞	清見村牧ヶ洞寺洞												×	中田吉右エ門	新文入	22.24.65 74	
149	上岩野	清見村牧ヶ洞上岩野			○								砂岩	○	二木酒造		21.24.49 65,74.81	
150	(平)	清見村牧ヶ洞平				○							凝灰岩	○	清見村教委			
151	(牧ヶ洞)	清見村牧ヶ洞			○								砂岩	○	村坂又平			
152	岩高	清見村夏版岩高			○									○			74.81	
153	寺ノ下	清見村福寄寺ノ下			○								凝灰岩	○	高山市郷土館		17.74.81	
154	大原	清見村大原和多田															24.49.74	
155	江黒	清見村江黒堂ノ下			○								砂岩				74.81	
156	江黒	清見村江黒堂ノ下											凝灰岩	×	清見村教委			
157	江黒	清見村江黒堂ノ下											砂岩	×	清見村教委	フリスム形		
158	江黒	清見村江黒堂ノ下					○						凝灰岩	×	寺地茂雄			
159	江黒	清見村江黒堂ノ下											砂岩	×	清見村教委			
160	野中	清見村森瀬野中															74	
161	三ッ谷	清見村三ッ谷大西			○								凝灰岩	○	林 雅一	新文入	85	
162		(清見村)	○										流紋岩	○	中田吉右エ門	新文入		
163		(清見村)			○								粘板岩	○	中田吉右エ門			
164		(清見村)				○							砂岩	○	中田吉右エ門	新文入		
165		(清見村)				○							砂岩	○	中田吉右エ門			

番号	遺跡名	所在地	I型		II型			III型		IV型	V型	VI型	VII型	石質	凹み	所有者 (保管場所)	備考	文献
			A	B	A	B	C	A	B									
166	木谷	大野郡白川村木谷下グイツ													(東屋)		26.42.58 65	
167	木谷	白川村木谷	○										凝灰岩	○	白川村教委	発掘調査		
168	荻町上長	白川村荻町上長															42.49.58 65	
169	島中通	白川村島中通			○										(山下・芝原)		42.58.65 81	
170	島辻誌	白川村島辻誌						○					安山岩	○	村坂又平	刻文入	51.58.65	
171	島巾通	白川村島巾通	○										安山岩	○	白川村教委	発掘調査	80.81	
172	島巾通	白川村島巾通								○			流紋岩	○	湯之島館		80	
173	飯島アワラ	白川村飯島アワラ				○									岐阜大学		49.58.65 81	
174	飯島アワラ	白川村飯島アワラ				○							砂岩	○	高山市郷土館		17.42	
175	飯島下田	白川村飯島下田				○									(佐藤彦太郎)		9.24.33.42 49.58.65	
176	(飯島)	白川村飯島				○								○	(吉田)		9	
177	有家ヶ原	白川村有家ヶ原山越													(北)		24.42.49 58.65	
178	芦倉家ノ北	白川村芦倉家ノ北													芦倉八幡		42.49.58 65	
179	小白川上野	白川村小白川上野													(長谷)		42.49.58 65	
180	小白川上野	白川村小白川上野									○				八幡神社	先石	39	
181	小白川上野	白川村小白川上野									○				八幡神社	先石	39	
182	上洞	白川村御母衣上洞	○												(大戸)		42	
183	鳩谷	白川村鳩谷寺尾				○									(吉田)		9.24.42. 49.58.65	
184	寺河戸不動様	荘川村寺河戸滝ヶ洞	○												荘川村		42.49.65	
185	黒谷塩屋	荘川村黒谷塩屋口				○									(小川)		42.65	
186	猿丸滝ヶ野	荘川村猿丸滝ヶ野				○								○	(荘川学校)	刻文入	42.49.65 81	
187	猿丸滝ヶ野	荘川村猿丸滝ヶ野				○									(荘川学校)		42.65.81	
188	野々俣後谷	荘川村野々俣後谷															42.49.65	
189	(ハカセヶ野)	荘川村中野ハカセヶ野															24.68	
190	牛丸	荘川村牛丸町				○							砂岩	○	高山市郷土館		17.24.42 49.65.81	
191	(荘川神社)	荘川村中畑宮ノ上				○									荘川神社		75.81	
192		(荘川村)				○									(吉田)	刻文入	9	
193	旗鉦	丹生川村旗鉦塚畑	○														24.49.65 81	
194	旗鉦	丹生川村旗鉦塚畑	○														24.49.65 81	
195	旗鉦	丹生川村旗鉦塚畑				○											24.49.65 81	
196	(蟹沢上)	丹生川村旗鉦						○					凝灰岩	×	後舎保		75	
197	日面	丹生川村日面															24.49.65	
198	日面	丹生川村日面	○										角閃 安山岩	○	坂本重次郎			

番号	遺跡名	所在地	I型		II型			III型		IV型	V型	VI型	VII型	石質	凹み	所有者 (保管場所)	備考	文献
			A	B	A	B	C	A	B									
199	(法 力)	大野郡丹生川村法力	○											○	(都築霊源)		5	
200	平 野	丹生川村法力平野															19.24.49 65	
201	田ノ洞	丹生川村町方田ノ洞															24.49.65	
202	大蓋宮前	丹生川村大蓋															24.49.65	
203	下上野	丹生川村上野						○					閃緑岩	○	山崎清三郎		24.34.65	
204	下番神堂	丹生川村上野	○										砂岩	×	奥田兼市	刻文入	63	
205	板 殿	丹生川村板殿東野								○			安山岩	×	高山市郷土館		17.19.24 65	
206	板 殿	丹生川村板殿東野								○			角閃 安山岩	○	土田吉左衛門		54.81	
207	板 殿	丹生川村板殿立道			○								流紋岩	○	土田吉左衛門			
208	板 殿	丹生川村板殿	○										凝灰岩	×	土田吉左衛門			
209	(柏原神社)	丹生川村柏原	○										凝灰岩	×	高山市郷土館	浮 文	17.65	
210	下 坪	丹生川村下坪広殿						○							片桐美良		24.75.81	
211	下 坪	丹生川村下坪広殿			○								凝灰岩	×	土田吉左衛門		54.81	
212	下 坪	丹生川村下坪広殿			○								流紋岩	○	片桐美良	刻文入	21.49	
213	下 坪	丹生川村下坪広殿						○					凝灰岩	×	土田吉左衛門			
214	下 坪	丹生川村下坪広殿						○					凝灰岩	×	寺地茂雄			
215	下 坪	丹生川村下坪広殿			○								凝灰質 砂岩	×	高山市郷土館			
216	下 坪	丹生川村下坪広殿	○										安山岩	×	高山市郷土館	刻文入		
217	下 坪	丹生川村下坪広殿						○					凝灰岩	○	坂本重次郎	沈 文		
218	かくしくれ	丹生川村五味原	○										砂岩	○	橋本繁藏		81	
219	下 保	丹生川村下保保木								○							34	
220	下 保	丹生川村下保			○								安山岩	○	土田吉左衛門			
221	殿 垣 内	丹生川村殿垣内						○					砂岩	○	二木酒造			
222	東 田	丹生川村坊方東田											石英斑岩	×	寺地茂雄	刻文入,大形	59.60	
223	(桜小路)	丹生川村山口											凝灰質 安山岩	○	土田吉左衛門	沈 文	71	
224	(北 方)	丹生川村北方			○										田口登志雄		75.81	
225	山下亀ノ平	宮村山下			○									○	白山神社		24.49.57 65,77.81 24.49.57 65	
226	山下御熊山付近	宮村山下															65	
227	猪山付近	宮村猪山															57	
228	浄泉寺跡																57	
229		(宮村位山山麓)								○				○	(往還寺)		57	
230	山 腰	久々野町大西山腰															24.49.65	
231	大 日 堂	朝日村青屋谷口													(晶 太助)		24.27.65	

番号	遺跡名	所在地	I型			II型			III型		IV型	V型	VI型	石質	凹み	所有者 (保管場所)	備考	文献
			A	B	A	B	C	A	B									
232	長瀬上野	益田郡小坂町長瀬上野	○										砂岩	○	大江 命	別文入	52.53.65 77.81	
233	長瀬上野	小坂町長瀬上野		○										○	大江 命	別文入	52.53.77 81	
234	長瀬上野	小坂町長瀬上野	○										凝灰岩		大江 命			
235	古子	小坂町長瀬古子		○									砂岩		林 由是		75.81	
236	湯屋	小坂町湯屋富士神社		○									安山岩	○	大江 命		40.52.53 65.77.81	
237	湯屋	小坂町湯屋	○										凝灰岩	○	高山市郷土館			
238	南垣内	小坂町落合南垣内	○											○	大江 命		52.53.65 81	
239	南垣内	小坂町落合南垣内					○							○	大江 命	沈文	52.53.65 77.81	
240	南垣内	小坂町落合南垣内		○										○	大江 命		52.53.65 77.81	
241	南垣内	小坂町落合南垣内										○		×	大江 命	プリズム形	52.53.81	
242	南垣内	小坂町落合南垣内									○		安山岩	×	吉朝則富			
243	桜洞神田	萩原町桜洞神田	○												縣神社	別文入	16.24.49 65.76	
244	(桜洞)	萩原町桜洞	○												(縣神社)		16	
245	竹の上	萩原町上村竹の上															24.50.65	
246	宮垣内	萩原町古閑宮垣内															46.49.65	
247	西高	萩原町四美西高															65	
248	横倉	萩原町四美横倉		○										○	萩原町教委	発掘調査	66.81	
249	横倉	萩原町四美横倉			○									×	萩原町教委	発掘調査	66.81	
250	横倉	萩原町四美横倉									○				(四美小学校)			
251	杉谷平	萩原町尾崎杉谷平															49.65	
252	尾瀬横平	萩原町尾崎尾瀬															4.65	
253	馬頭	萩原町尾崎委生															46	
254	(上呂)	萩原町上呂			○								蛇紋岩	○	江 間 晃		81	
255	下名丸	馬瀬村名丸下名丸															49.65	
256	無笹	馬瀬村黒石無笹	○										銅雲母 片岩	×	片桐 美良		1.75.81	
257	(薬師堂)	馬瀬村中切	○										砂岩	×	馬瀬村教委	浮文	82	
258	(神垣内)	馬瀬村中切	○										安山岩		馬瀬村教委		82	
259	井谷	馬瀬村井谷		○										○	総島中学校			
260	大畑	下呂町御殿野見座															49.65	
261	(宮地)	下呂町宮地		○											(田尻久六)		1	
262	(乗政)	下呂町乗政第2部落			○								凝灰岩	×	熊崎 守彦			
263	(乗政)	下呂町乗政第2部落										○	流紋岩	×	熊崎 詔基	プリズム形		
264	下島	下呂町乗政下島					○								下呂町教委	発掘調査	83	

番号	遺跡名	所在地	I型		II型		III型		IV型	V型	VI型	VII型	石質	凹み	所有者 (保管場所)	備考	文献
			A	B	A	B	C	A									
265	下島	益田郡下呂町乗政下島												○	下呂町教委	発掘調査	83
266	中切	金山町中切															49.65.69
267	東苜部	金山町東苜部															49.65
268		(出土地不明)	○											×	二木酒造	刻文入	5.9
269		"	○											×	二木酒造	刻文入	5.9
270		"					○								二木酒造	刻文入	5
271		"								○			安山岩	○	二木酒造		5.55.72
272		"								○			砂岩	○	二木酒造		5
273		"			○									○	二木酒造		9
274		"	○										砂岩	○	二木酒造	浮文	9
275		"	○												二木酒造		1
276		" (飛騨小八貫村)	○											×	二木酒造	刻文入	65雲根志
277		((出土地不明)			○									○	緑色片岩	二木酒造	
278		"			○										二木酒造		
279		"	○										流紋岩	○	村坂又平		
280		"			○									○	郷 浩		3.5.67
281		"	○											○	郷 浩	刻文入	1.3.67
282		"				○									(吉 田)		9
283		"								○					(田尻久六)		1
284		"			○										(脇田治助)		1
285		"									○			○	鎮西博物館		7
286		"			○									○	杉下 太郎右三門	刻文入	1
287		"						○						○	(佐藤彦太郎)	刻文入	9
288		"					○								(佐藤彦太郎)	刻文入	9
289		"					○						流紋岩	×	高山市郷土館		
290		"			○									○	(岡村利平)		
291		"				○								○	(西滝栄吉)		
292		"								○				×	片桐美良		
293		"								○				×	片桐美良		
294		"			○										(藤木繁吉)		
295		"				○									(藤木繁吉)		
296		"				○									(藤木繁吉)		
297		"						○							(藤木繁吉)		

番号	遺跡名	所在地	I型		II型		III型		IV型	V型	VI型	VII型	石質	凹み	所有者 (保管場所)	備考	文献
			A	B	A	B	C	A									
298		(出土地不明)													(藤本繁吉)		
299		#													(藤本繁吉)	プリズム形	
300	戸市	吉城郡古川町戸市											凝灰岩		蒲久雄	有孔	
301	(上町)	古川町上町	○										流紋岩	×	船坂健三		
302	(在家)	上宝村在家											流紋岩	×	坂本重次郎		
303	(島平)	河合村小無羅字島平	○												○河合村教委	別文入	70.75.78 81
304	(小無羅)	河合村小無羅	○												弁才天社	別文入	1
305	石神	神岡町石神													富山市 考古資料館		
306	中沢上	宮川村中沢上													○	日枝神社	72.78

石冠文献目録（飛驒関係分）

1	佐藤泰郷	『日本古物小集会図録 千代の鏡』	1886
2	岡 巖	「飛驒の石器」東京人類学会雑誌3-21	1887
3	神田淡匡	「第二十三版図解」東京人類学会雑誌3-25	1888
4	若林勝邦	「石斧砥図解」東京人類学会雑誌4-40	1889
5	神田淡匡	「飛驒国各種石冠図説明」東京人類学会雑誌5-52	1890
6	田中正太郎	「飛驒国ノ石器ノ一・二」東京人類学会雑誌8-79	1892
7	江藤正澄	「奇石冠石考」東京人類学会雑誌13-149	1898
8	田中正太郎	「飛驒の石冠に就て」東京人類学会雑誌14-156	1899
9	大野延太郎	「飛驒発見石器に就て」東京人類学会雑誌19-220	1904
10	大野雲外	「余が飛驒に関係ある理由と其歴史」飛驒史壇1-1	1914
11	朝戸高山	『鶯夢軒所蔵石器図石のまきもの』	1919
12	小金井良精	「日本石器時代の埋葬状態」人類学雑誌38-1	1923
13	寺田貞次	「石冠の用途に就て」考古学雑誌13-10	1923
14	早川莊作	「石冠用途に就て」考古学雑誌13-11	1923
15	犬塚行藏	「遺物巡禮記」『犬塚行藏飛驒考古学遺稿』より	1927
16	犬塚行藏	「益田郡萩原町縣神社石器時代遺物観覧記」飛驒史壇8-12	1929
17	犬塚行藏	「飛驒出土の二・三の土器・石器」考古学雑誌20-4	1930
18	多賀秋五郎	『飛驒史の研究』	1931
19	林 魁一	「飛驒高山附近の石器時代遺物及び遺蹟」史前学雑誌5-2	1933
20	小沢忠一郎	藤本繁吉氏収集遺物写真集	1933
21	赤木 清	「石冠の用途について」飛驒考古学会会報2-1	1934

22	赤木清	「石冠の第三型式」石冠2-2	1934
23	笠原烏丸	「裝飾石器を出土した飛驒西沼遺跡」考古学5-3	1934
24	飛驒考古土俗学会	「飛驒石器時代遺蹟地名表」	1935
25	立田長太郎	「我が校下の石器時代」	1935
26	八幡一郎	「飛驒の亀ヶ岡式土器」ひだびと4-4	1936
27	林魁一	「飛驒益田郡朝日村の石器時代遺跡及遺物」人類学雑誌51-4	1936
28	赤木清	「白川村木谷の石器時代遺蹟」ひだびと5-8	1937
29	赤木清	「吉城郡坂下村打保出土の石冠と枕石」ひだびと5-10	1937
30	林魁一	「飛驒国吉城郡蔵柱の遺物」ひだびと5-11	1937
31	林魁一	「飛驒国吉城郡上宝村石器時代遺跡遺物に就いて」史前学雑誌9-6	1937
32	林魁一	「吉城郡阿曾布村の遺跡」ひだびと6-5	1938
33	吉田富夫	「石冠考」考古学11-9	1940
34	赤木清	「石冠の新資料」ひだびと10-7	1942
35	林魁一	「飛驒国阿曾布村石器時代遺跡及び遺物」人類学雑誌58-7	1943
36	神岡町史編纂資料	「展覧会出品目録」	1951
37	高山市	「高山市史」上	1952
38	林魁一	「岐阜県に於ける史前考古学手引」第2版	1953
39	土田吉左衛門	「山家地方石器時代の遺跡踏査」飛驒春秋1-8	1956
40	大江錦舟	「湯屋遺跡について」飛驒春秋2-3	1956
41	朝日村	「朝日村誌」	1956
42	岐阜県教育委員会	「荘白川総合学術調査報告」	1957
43	大江命・下形武	「上宝村の先史時代」	1958
44	小林行雄	「石冠」『図解考古学辞典』	1959
45	国府村	「国府村史」全	1959
46	川西村	「続川西村史」	1959
47	澄田正一	「荒城神社縄文式時代遺跡」岐阜県指定文化財調査報告書4	1960
48	丹生川村	「丹生川村史(全)」	1962
49	岐阜県教育委員会	「岐阜県遺跡目録」	1962
50	萩原町	「萩原町誌」	1962
51	土田吉左衛門	「再び白川郷の辻詰遺跡をさぐる」飛驒春秋8-2	1963
52	大江命	「飛驒の考古学Ⅰ」	1965
53	小坂町	「岐阜県小坂町誌」全	1965
54	土田吉左衛門	「東野・広殿・中之洞川出土の石冠について」飛驒春秋10-9	1965
55	沼田啓太郎	「"おいねずみ"について」石川考古学研究会誌10	1966
56	土田吉左衛門	「白川村小白川出土の石冠形土製品について」飛驒春秋12-8	1967

57	宮村	『宮村誌』	1968
58	白川村	『白川村史』	1968
59	土田吉左衛門	「再び冠状大石器の発見について」飛騨春秋13-7	1968
60	寺地茂雄	「東田遺跡の冠状大石器」飛騨春秋13-7	1968
61	土田吉左衛門	「小鳥川水系の水没文化財について」飛騨春秋14-11	1969
62	八賀晋	「飛騨国府宮地内遺跡の石冠のこと」岐阜史学57	1970
63	大八賀村	『大八賀村史』	1971
64	河合村	『下小鳥ダム関係埋蔵文化財調査報告書』	1971
65	岐阜県	『岐阜県史』通史編原始	1972
66	萩原町	『飛騨横倉』	1972
67	郷浩	「石冠私考」濃飛の文化財 第5号	1974
68	荘川村	『荘川村史』	1975
69	金山町	『金山町誌』	1975
70	土田吉左衛門	「宮川村出土の石冠について」飛騨春秋20-7	1975
71	土田吉左衛門	「特異石器考」飛騨春秋20-10	1975
72	橋本正	「御物石器論」「大境」	1976
73	土田吉右衛門	「家ノ下遺跡出土の石冠および御物石器について」飛騨春秋21-10	1976
74	清見村	『清見村誌』	1976
75	岐阜県立博物館	『濃飛の先史時代』	1979
76	萩原町教育委員会	『萩原の史跡と史話』はぎわら文庫3	1980
77	鈴木道之助	『石器の基礎知識』Ⅲ 柏書房	1981
78	宮川村	『宮川村誌』通史編上	1981
79	金子裕之編	「縄文時代Ⅱ(後期・晩期)」日本の美術191	1982
80	白川村	『巾通り遺跡発掘調査報告書』	1983
81	中島栄一	「石冠・土冠」縄文文化の研究9 雄山閣	1983
82	馬瀬村	『馬瀬村の埋蔵文化財』	1985
83	下呂町	『下呂遺跡』	1985
84	岐阜県立博物館	『濃飛の縄文時代』	1985
85	林雅一	「清見村大西遺跡の石冠新資料」どっこいし19	1985
86	小島俊彰	「平村の縄文遺跡」「越中五箇山平村史 上巻」	1985

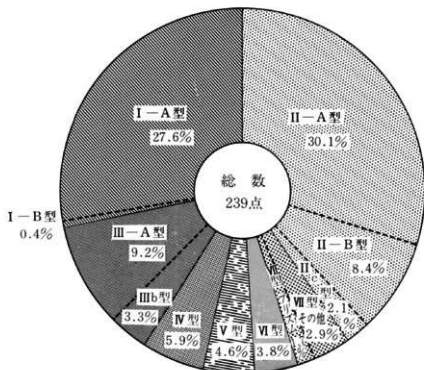
〔参考〕

87	麻柄一志・幸子	「石鋸雑考—富山市野田遺跡採集の石鋸—」『富山市考古資料館報』614	1986
88	能登健	「信仰儀礼にかかわる遺物(1)」神道考古学講座第1巻 前神道期	1981
89	中島栄一	「新潟県・籠峰遺跡」月刊文化財11	1986

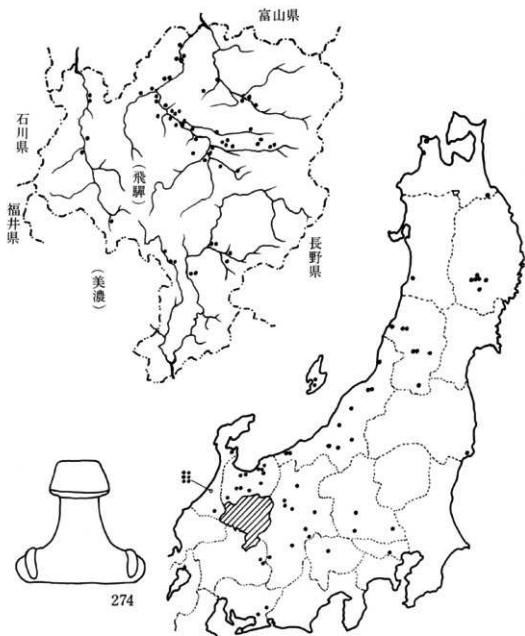
表10 飛騨地方の石冠の底部属性一覧表

	計	%	凹み			凹み有無の比率		凹みの形					刻文入	
			有	無	不明	有	無	○	∪	⊗	⊙	不明		
I型	A	66	27.6	31	19	16	62%	38%	18	8	2	3	0	21
	B	1	0.4	1	0	0	100	0	1	0	0	0	0	0
II型	A	72	30.1	42	4	26	92	8	25	2	13	2	0	15
	B	20	8.4	7	6	7	54	46	3	2	0	2	0	2
	C	5	2.1	3	1	1	75	25	1	2	0	0	0	1
III型	A	22	9.2	8	7	7	53	47	4	0	0	2	2	6
	B	8	3.3	4	3	1	57	43	0	3	0	1	0	2
IV型		14	5.9	1	12	1	8	92	0	1	0	0	0	1
V型		11	4.6	8	1	2	89	11	1	7	0	0	0	2
VI型		9	3.8	0	8	1	0	100	0	0	0	0	0	3
VII型		4	1.7	0	3	1	0	100	0	0	0	0	0	0
		7	2.9	2	3	2	40	60	0	2	0	0	0	3
小計	239	100.0	107	67	65				53	27	15	10	2	56
				計 239						計 107				

表11 飛騨地方の石冠比率一覧表



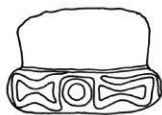
挿図8 I型石冠出土分布図



全国出土総数 134点
 うち飛騨地方出土数 67点
 (50%)

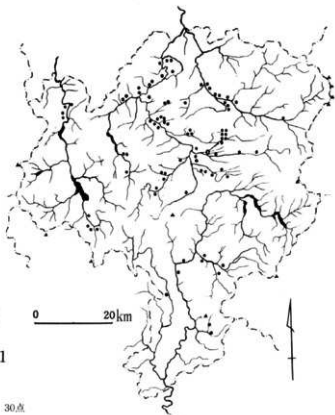
(中島栄一「石冠・土冠」1983に加筆)

挿図9 II型石冠出土分布図

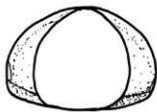


121

飛騨地方出土数 30点

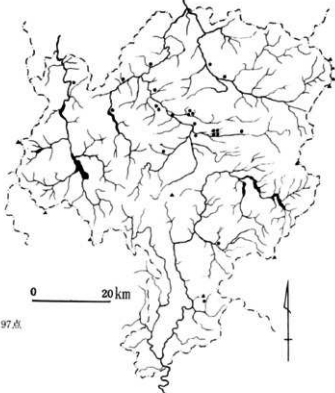


挿図10 III型石冠出土分布図

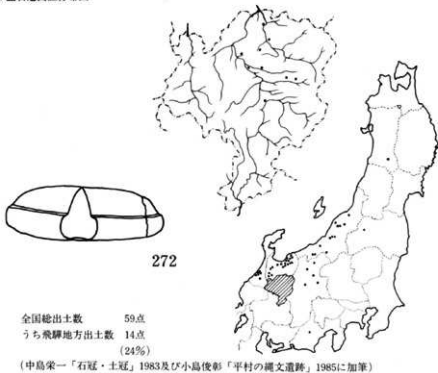


87

飛騨地方出土数 97点



挿図11 W型石冠出土分布図



挿図12 V型石冠出土分布図

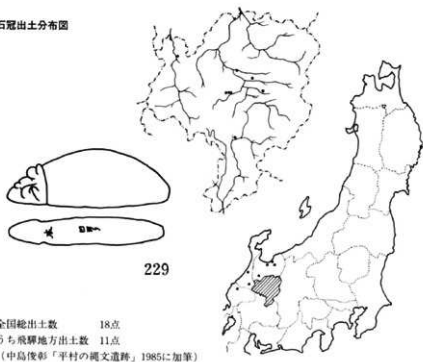


插图13 石冠(1型)

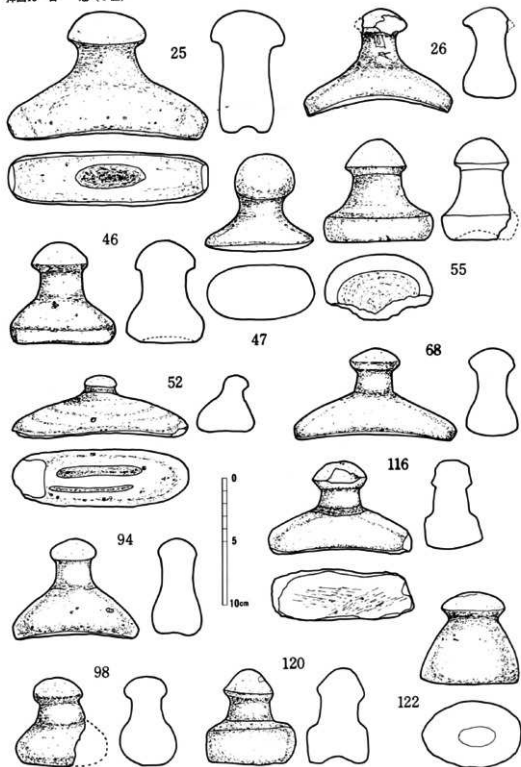
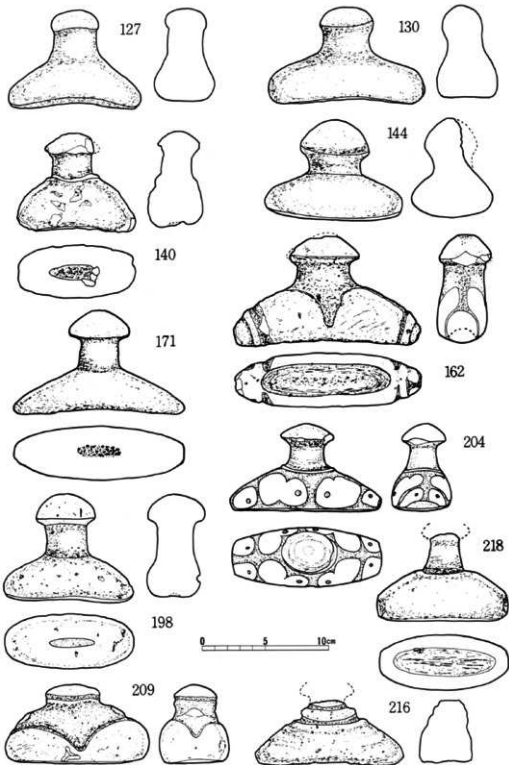


插图14 石冠 (I型)



神圖15 石 冠 (I型, II-A型)

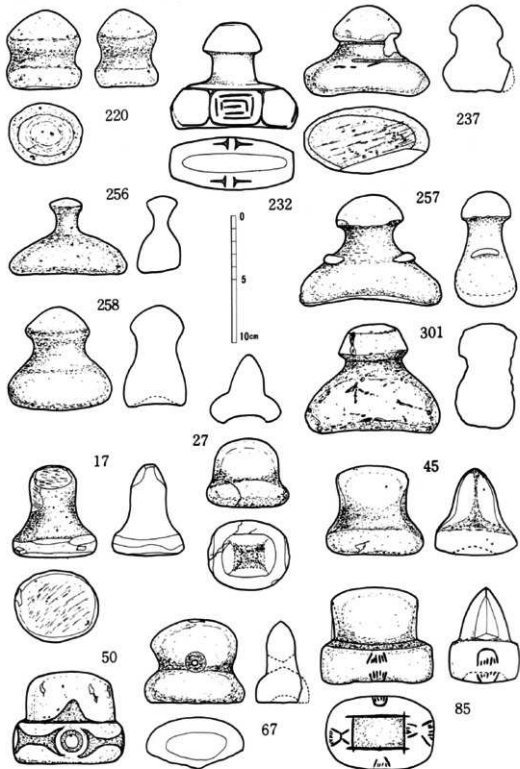


插图16 石 冠 (II-A型)

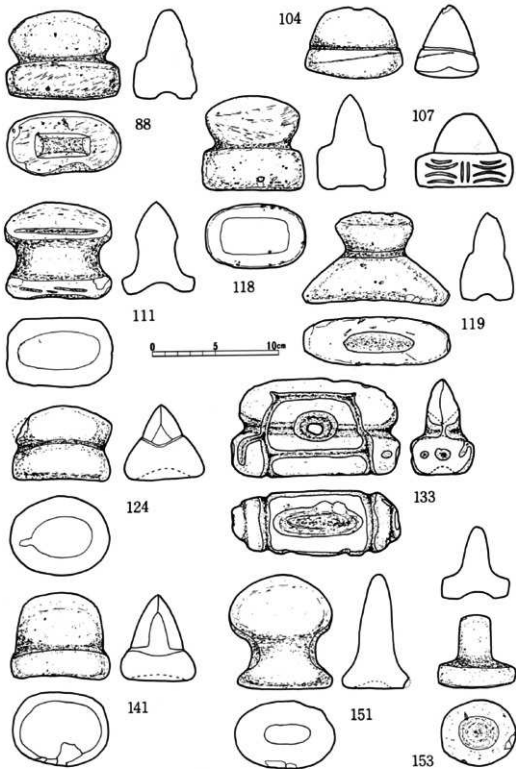


插图17 石冠 (II-A型, II-B型)

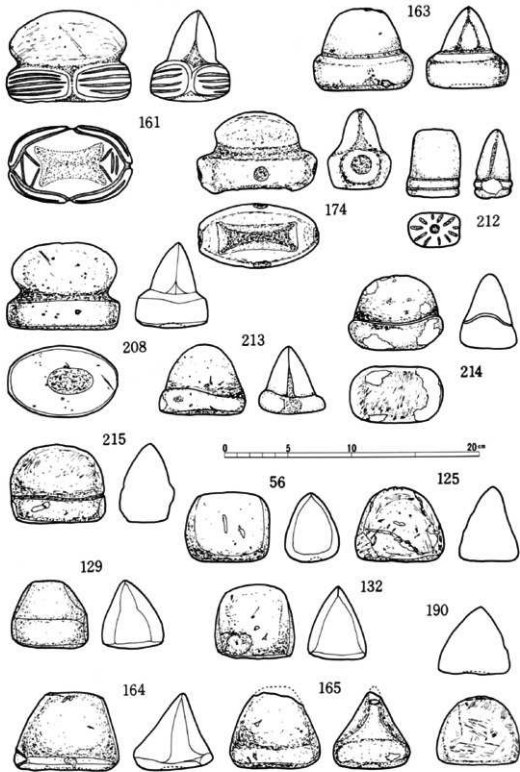


插图18 石 冠 (II-B型, II-C型, III-A型)

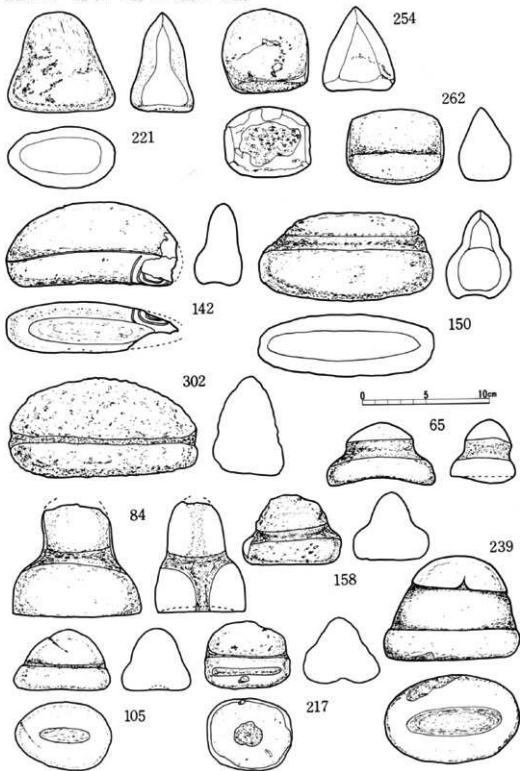


插图19 石 冠 (III-B型 IV型, V型)

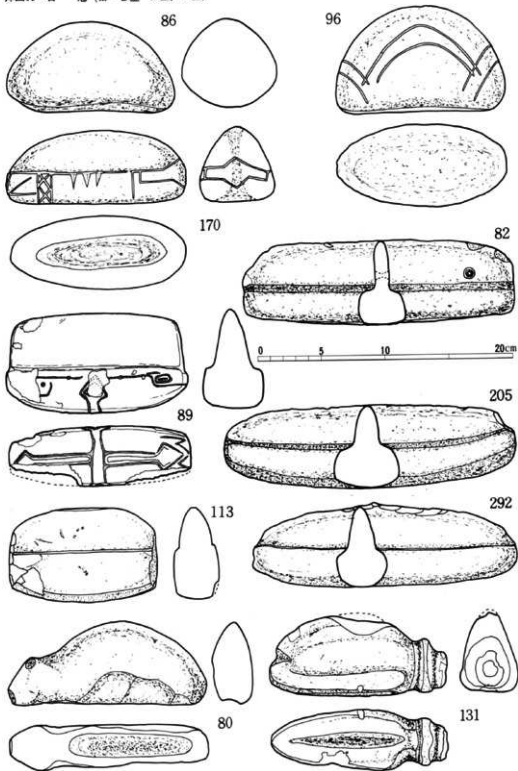
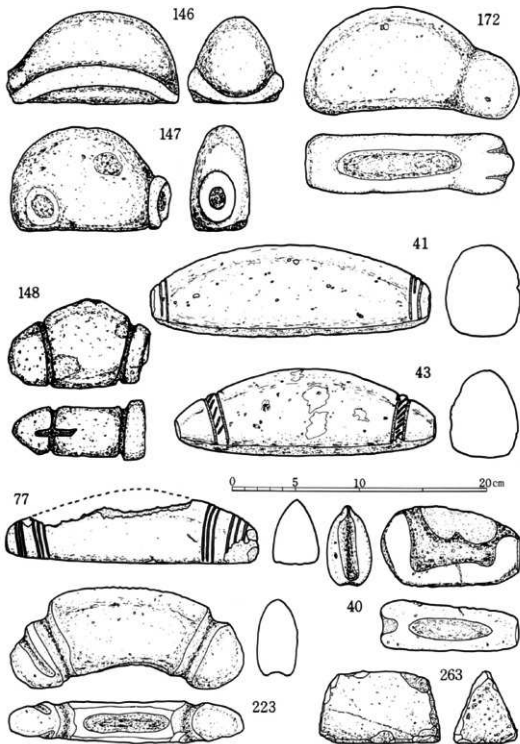
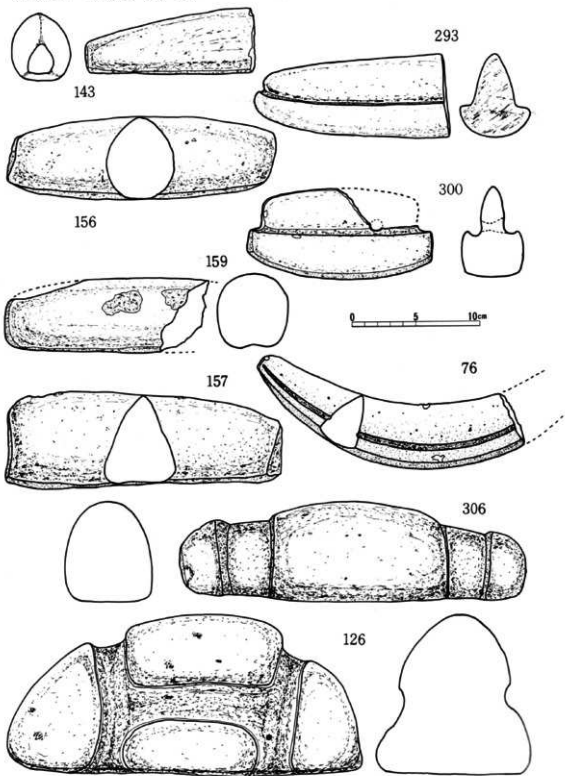


插图20 石冠 (V型, VI型, VII型)



神圖21 石 冠 (IV型, VI型, VII型)



图版 1 独 钻 石



5



11



31



49



2



4



8



43



44



53



9



60



45



29



47

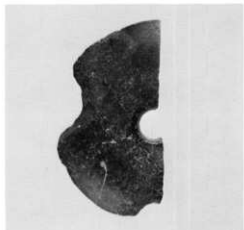
图版 2 环状石斧



2



4



5



6



7



9

图版 3 多頭石斧



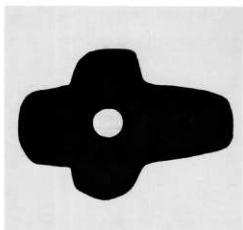
三-6



三-8



四-1



四-2



六-1



六-3

圖版 4 石 冠



46



34



162



171



204



209



50



85



111



133



161



132



142



150



164



84



96



170

图版 5 石 冠



89



113



300



82



205



80



131



172



41



43



76



157



223



126



306

飛驒の考古学遺物集成 II

昭和62年 3 月 発行

編集 高山市教育委員会
発行 高山市教育委員会
印刷 大 進 社
高山市有楽町40番地